

令和7年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（明徳幼稚園）

教育目標

心豊かに 心身ともにたくましく 主体的に遊びや生活を創造する子どもの育成を目指して

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月17日	学校運営協議会
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・本園の強みである豊かな自然環境を今一度見直し、教育活動に生かし、豊かな感性や、好奇心、探求心、人とつながる力の育成を目指した教師の援助や環境構成について考える。
- ・未就園児3歳児から小学校就学までを見通し、発達にふさわしい環境や援助を考える。
- ・実践を振り返り、特に本園の豊かな自然を生かした環境や教材について見直し、子どもが主体的に関わりたい、やってみたいと思えるように研究を深める。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・日々の子どもの姿についての情報共有、記録、事例研究による子どもの変容、週案の反省・評価、教育課程の見直し
- ・アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」「子どもは友達と関わることを楽しんでいる」など

中間評価

各種指標結果

- ・毎週3学年で保育の振り返りをするとともに、週案の評価と合わせて教育環境や教師お援助について話し合った。
- ・園内研究における研究保育、事例研修により、指導助言をいただき保育の質を高めることができた。
- ・アンケート結果「子どもは喜んで幼稚園に通っている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて95%、「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」について「そう思う」「大体そう思う」で100%、「子どもは友達と関わりながら一緒に遊ぶことを楽しんでいる」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて95%、「幼稚園は子どもがやりたい遊びが十分にできるように環境を整えたり援助をしたりしている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「幼稚園は一人一人の良いところを認めて援助している」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて97%、「幼稚園は自然を大切にして、保育に生かしている」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、「子どもは自然と関わりながら遊ぶことが好きである」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて92%、「保護者も自然環境には興味関心がある」について「そう思う」「大体そう思う」を合わせて92%

自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none">・アンケート結果はいずれも高い数値を示していた。・園内研究ではよりテーマに迫った分析をする必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・学年に応じた発達段階や個々の発達にも着目し、実態を見取り、ねらいや子どもの育ちにふさわしい経験が積み重ねていけるよう環境構成や援助を見直していく。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善

学校関係者による意見・支援策

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組

- ・年度当初より、小学校とともに架け橋期カリキュラムを策定し、検証していく。
- ・幼保小架け橋ミーティングで、年間計画を策定し、子どもの交流活動や教員の研修を行う。
- ・子どもの交流においては、互いの学習や遊びを尊重し、活動内容や場の工夫を行う。その際、互いのめあてを共有し、子どもの学びや育ちを保障する交流活動になるよう配慮する。
- ・就学前、就学後の綿密な情報共有を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・架け橋プログラムで幼保小での交流や合同研修、参観の回数など
- ・架け橋期のカリキュラムの作成についての進捗状況
- ・近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応
- ・地域の他の幼児教育施設との横のつながりの実践
- ・読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善

中間評価

各種指標結果

- ・幼保小の合同打合せ、合同研修2回 子どもの交流（幼小）2回、相互参観2回
- ・4月当初よりカリキュラムの作成のため幼稚園のデータを提供
- ・幼稚園通信発行

分析（成果と課題）

- ・年度当初より幼小だけでなく地域の保育園・こども園と共に打ち合わせし、年間計画を策定できたことが大きな進歩であった。
- ・幼小交流について、互いの“ねらい、めあて”について抑えながら事前、事後の話合いで共有できればと思う。
- ・小学校を核とした連携は進んでいるが、幼児教育施設間で架け橋プログラムの理念の共通理解を図るためにには、地域の幼児教育施設同士の連携が今後必要になってくると思われる。
- ・読書ノートの活用については82%が活用できていると回答、例年と比較すると高い数値である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼小の交流について、互いの教育での“ねらい”を知り取り組んでいく。
- ・幼保小で交流や合同研修等があったことを幼児教育施設間でも共有する機会がもてるといい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・架け橋プログラムで幼保小での交流や合同研修、参観の回数など
- ・近隣の小学校へ発信した幼稚園通信での反応

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の他の幼児教育施設との横のつながりの実践 ・ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 ・大切な取り組みであるのでしっかりと進めてほしい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策

（3）預かり保育について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と預かり保育担当教員が子どもの心身の状態について引継ぎ、緊密に連携をとる。 ・ 時期や季節に応じた玩具や遊びの環境を整え、子どもが安心して、ゆったりとした気持ちで充実して過ごすことができるようとする。 ・ 未就園児3歳児クラスの子どもについて、安心感が持てるよう、子育て支援、預かり保育両担当の連携を密に図る。 ・ 早朝及び未就園児3歳児の利用制度について地域への周知を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育担当教員と担任との連携がしっかりととられている。特に3歳児については、生活習慣面でも個別の対応が必要になってくる。 ・ 「子どもは預かり保育に喜んで参加している」については「そう思う」「大体そう思う」を合わせて82%「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせると10%、「わからない」8%、「早朝

自己評価	および保育後の預かり保育は、保護者にとっても有用である」については「そう思う」「大体そう思う」を合わせて100%、数値としては高い値を示している。
	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員同士の連携が図れているため、教育時間の活動を鑑み、預かり保育の活動内容を検討したりも教育時間との関連性をもたせたりしている。 今後も子供の集中力や体力を考えつつ充実したものとなるようにして行きたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当教員と担任との連携を密に図る 子どもの体力や集中力を考えて教育内容を充実させていきたい。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育参加人数 預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。 アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 就労している保護者の増加により預かり保育のニーズが高まっているのを感じる。昔と実態が変わってきているのだなと思う。
	最終評価
自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児クラスと在園児クラスとの交流の機会をもち、園の教育への理解や発信につなげる。 異学年の交流を大切にし、安心して過ごしたり、刺激をもらったりしながら生活や遊びが充実できるようする。 保護者の子育てに対する不安や悩みなどを丁寧に受け止め、共に具体策を考え、保護者の安心につなげる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子育て支援事業への登録、参加人数の推移。
- ・子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。
- ・保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

- ・登録者、参加人数は格段に減少している。
- ・新たなイベントを開催し、本園の子育て支援の取り組みに関心をもってもらえるようにした。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・登録者は減少しているが、参加している保護者にとっては交流の場となり、子どもにとっても家庭以外の人や遊具と出会う新たな環境になっている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・毎月開催の社会福祉協議会による子育て相談、親子の取り組みを継続していく。
- ・登録者の参加のしやすさを考え、たまご組の開催曜日を減らさずに、プレひよこ組の開催日を別に設定した。
- ・開催日カレンダーをSNSに掲載するだけでなく家庭で手元に置いて見てもらえるよう配布していくようにする

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・子育て支援事業への登録、参加人数の推移。
- ・子育て支援の取り組みの回数や参加人数、教育相談件数。
- ・保護者の意見

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・登録者が減少していると聞いているので、ポスターの掲示やチラシの配布など協力できることをしていきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

具体的な取組

- ・岩倉地域自然ボランティアに地域の生き物、植栽について教えてもらったり、畠の先生に栽培物の植え方や育て方を教えてもらったりすることを通して、自然に関心をもてるようになるとともに、地域の方とつながる喜びを感じられるようとする。
- ・自治連、連携と連携し、地域にも園の教育について発信する機会をもつ。
- ・お茶会、地域行事への参加、子育て支援の取組等で地域の方のお力を頂き充実を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見
- ・京都岩倉自然学習ボランティアの先生による教育環境についての助言、取り組みの充実と、子ども、保護者の関心度や変容、研究の充実。
- ・アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会 どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など

中間評価

各種指標結果

- ・岩倉自然学習ボランティアの方による自然体験は継続できている。生き物の提供、園児対象のミニ講演会、遠足への同行などにより豊かな自然体験ができている。
- ・運営協議会の理事の方によるお茶会の開催も例年同様に開催できた。
- ・自治連と連携し、園の広報に協力していただいている。
- ・PTA主催の活動、PTAの行事への関わりは、昨年度より整理されてきている。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・運営協議会の理事の方によるお茶会の開催により、子どもたちが伝統文化に触れる体験ができた。
- ・自然ボランティアによる自然体験は園内の研究テーマと関連し、保育の充実につながった。
- ・PTA主催の行事は、保護者に負担のない形で開催できたので、保護者の就労実態等を考慮しながら今後につなげてく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・自然ボランティアのお力を生かし、保護者向けの講演会も開催し、親子で地域の自然を共有できるようする。
- ・PTA、おやじの会に関わる行事の在り方を検討する。
- ・自治連には引き続き、園の広報にご協力いただく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・アンケート項目「学校運営協議会 どんぐりーずと参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」など

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・PTAの在り方が昔とは変わってきている。時代の実態に見合った行事の在り方に変化しているのですね。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（6）教職員の働き方改革について

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 教職員の心身の健康の保持増進を図り、教育を充実するための働き方改革に対する教職員の更なる意識改革を図る。 教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、教職員間、校務支援員との連携を密に図り、働き方改革を推進する。 課題の洗い出しと共に、働きがいのある職場環境を整えていく。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> 会議の精選・効率化、ペーパーレス化、行事の内容や業務の分担の見直しと効率化、超過勤務の短縮。 電話対応時間を18時までとする。 水曜日をノーワークデーに設定し、実現する。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> 教職員の超過勤務時間の実態把握や年休取得率。 校務支援員を初めとする教職員間の連携により改善できた業務内容。

中間評価

各種指標結果
<ul style="list-style-type: none"> 校務支援員が本園での経験年数が長いためか、自ら見通しを動いていただくので、教員の負担が軽減されている。 超過勤務時間は少ない。 会議のペーパーレス化により資料作成、修正等の時間が短縮され、効率が上がっている。
分析（成果と課題）
<ul style="list-style-type: none"> 校務支援員とともに全教員が協力して、より業務の効率化を推進し、健全な職場環境を維持していく必要がある。
分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> 現在の取り組み方を継続しより効率化することで、教職員も心身とも良好な状態で子どもと向き合えるようにしていく。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ○超過勤務の時間数 ○年休取得日数

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 ・働き方改革が推進されてから、改善されてきているのが目に見えてきているのではないか。引き続き取り組んでいってほしい。
-----------------------------	--

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策